

こんにちは 2017年8月17日No.148

ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



chikamiki222@gmail.com
☎&fax 042-582-1870
☆自宅:日野市万願寺 6-35-9
カサベルデ 201
☆ちかざわ事務所(三沢中学校
のそば) 日野市三沢 1-13-5

私たちの手で核兵器禁止条約にサインする政府を！

核兵器が否定されたことを喜び合う大会に

私は、8月7日～9日長崎市で開かれた原水爆禁止世界大会に参加しました。

7月7日に国連で、122ヶ国が賛成し、「核兵器禁止条約」が採択され、今年特別な大会となりました。

開会総会には禁止条約交渉会議を導いてきた国連軍縮担当上級代表の中満泉さんがスピーチし、「条約の核心は核兵器を否定し、それを国際法として成文化した点にある」、「条約は被爆者のみなさんの長年の取り組みが結実したものだ」、「国連は核兵器のない世界という目標へ具体的な歩みを進めるため、すべての国々や市民社会と協力し、いっそう努力したい」等と述べました。

ヒバクシャの苦しみ、世界の国々が共有し

2日目には国連会議で条約を作った政府代表やNGOが参加する「フォーラム」に参加しました。オーストリア外務省のマルチン・クリューガーさんは「NATOとワルシャワ条約機構、東西冷戦の境界線に位置するオーストリアは伝統的に軍縮や対人地雷禁止条約、クラスター爆弾禁止条約のために奮闘してきた」と報告し、核保有国であるイギリスの核軍縮キャンペーンCNDの代表からは「国内では条約の報道が少ないが、インターネット等を活用し、条約の意義を知らせていく」と語られ、私達も地域で条約を学び世論を広げ、政治を変えていかななくては、と思いました。



今年の日野原水協からの代表は7人(左写真)、地域や所属する団体から募金を集めての参加です。毎年日野市長、議長も代表派遣に協力をしています。「核兵器廃絶」を活動の目的としている新日本婦人の会は中心になって毎年大会へ代表を送っています。今年は革新懇や地域からの代表が参加しました。9月18日(月・祝)14時～生活保健センターで報告会を行います。

ごみ広域化計画強行は許されません。白紙にして住民と一からの見直しを！

いつでも、どんなことでもお電話下さい ちかざわ携帯 ☎090-9313-1192

【日本共産党の無料法律相談】 第1.2.3木曜日予約制です
第1.3木曜日 18:00～20:00 第2木曜日 13:00～15:00



万願寺グラウンド、今後の利用は住民の声をもとに

元々学校用地、公共のために生まれた土地

6月議会に提出された補正予算には「万願寺グラウンド用地原状回復修繕料」として4,557万6千円が含まれていましたが、日本共産党市議団はこの項目は認められないと、他の認められない項目とともに予算を削除をした修正案を提出しました。(修正案は反対多数で否決され、原案が可決されました。)

万願寺グラウンドは、これまでソフトボール、軟式野球に使われていましたが、神明地域の実践女子大の土地を土日に関り無償で貸してもらえなくなったために、そちらを整備し、万願寺グラウンドは閉鎖し、土地の原状回復をするというものです。

もともとこの土地は、万願寺地域の区画整理事業の際に「小学校用地」として生み出されましたが、その後小学校は作られず、グラウンドとして利用されてきました。

市は公益財団法人東京都都市づくり公社と、日野市土地開発公社に賃料を払い利用をしてきました。

住民や旧地権者に説明・相談なく閉鎖へ

グラウンドとしての利用を中止するにあたり市は、利用者団体の意見は聞いたそうですが、周辺住民への説明や意見聴取は全く行っていません。

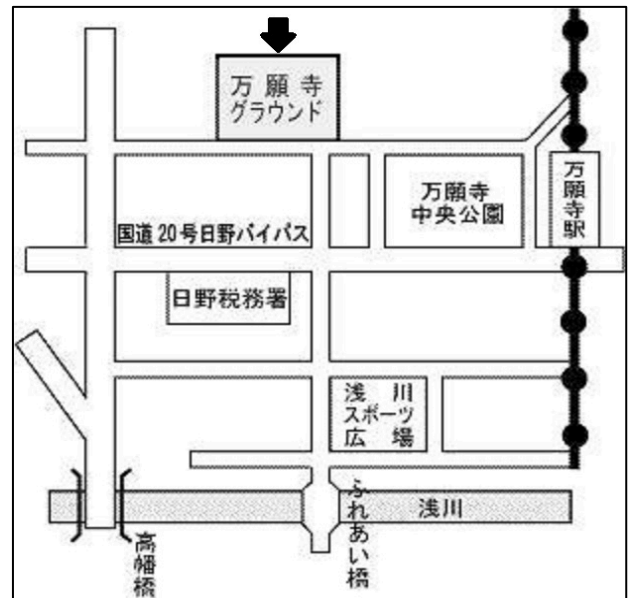
また、市は学校建設の計画がなくなった際には旧地権者の方々に説明しましたが、今回は行っていません。

これではこの土地は公共のためにと、先祖伝来の土地を提供された方々に失礼ではないでしょうか。

また、公共的に使われてきたこの土地の用途を変えるのであれば、周辺住民の方々の了解を得るのは当然のことで、市が勝手に判断することは許されません。

万願寺地域のまちづくりに関わる問題

今後の土地の利用について市は説明会をひらき、住民の声をもとに考えるべきです。



いのちがいらばん

自己紹介が続きましたが、今回はお休みして…。長崎で会ったオーストリアの政府代表は、2014年に初めて被爆者の経験を聞き、核兵器の非人道性に触れた衝撃は言葉に出来ないと言いました。北朝鮮とアメリカの緊張のもとで迎えた今年の8月15日、それぞれの指導者が核兵器の非人道性を学ぶこともそれを生かすことも出来ず、未だに「戦争ごっこ」のつもりなのかと怒りが止まらず。核兵器に固執する勢力は禁止条約を意味のないものにみせようと躍起。オーストリアの代表は握手を求めると私に「広めて」と言いました。被爆者が「自分たちを最後の存在に」と72年間求め続けた願いは私たちが必ず未来へと。



ちがざわ美樹